

記 事

石油技術協会第 88 回定時総会記事

石油技術協会第 88 回定時総会は、令和 5 年 6 月 6 日に秋田市にぎわい交流館 AU（あう）において開催され、特別会員および正会員 1,393 名のうち、総会出席者 44 名、委任状 199 名、計 243 名をもって、会則第 26 条に定める定足数（特別会員および正会員の 10 分の 1）を満たし成立。付帯事項はすべて承認可決された。（議決資料は別掲載）。

次 第

1. 開 会
2. 議長選出
3. 会長挨拶
4. 議 事

【議決事項】

- 第 1 号議案 令和 4 年度事業報告
- 第 2 号議案 令和 4 年度決算報告
- 第 3 号議案 令和 5 年度事業計画（案）および一般会計
予算（案）の承認の件
- 第 4 号議案 会則改定の件
- 第 5 号議案 名誉会員承認の件

【報告事項】

1. 第 67 回石油技術協会賞選考結果報告

【表彰式】

5. 閉 会

1. 開 会（13:30）
司会：前半は協会幹事平山鋭（㈱ INPEX）、後半は近藤秀樹（天然ガス鉱業会）が担当。
2. 議長選出
小寺会長が議長に選出された。
3. 会長挨拶
「石油技術協会会長の小寺でございます。私は昨年 6 月に会長を拝命いたしました。本日はお忙しい中、多くの方にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。秋田開催は 7 年ぶりとなります。コロナも明けまして、本総会、春季講演会を実開催の形で美の国秋田で開催できますことは誠に喜ばしく存じます。この日を迎えることが出来たのも、秋田県庁、秋田大学、秋田観光コンベンション協会、更に秋田に事業所をお持ちの石油資源開発様、㈱ INPEX 様、関係するすべての方にこの場をお借りして感謝申し上げる次第です。
当協会は今年で 90 周年を迎えます。1933 年の設立



会長挨拶



総会写真

年には秋田の八橋油田で出油したとの記録がございまして、1933 年の年は本邦の石油開発史にとってとても重要な年であったと言えます。その記念すべき大会を八橋油田のある秋田で開催できますことは、大変感慨深いものがございます。」

4. 議 事

議長：議案書の要点と補足説明をまとめたスライドを用いて説明する。

第 1 号議案 令和 4 年度事業報告

令和 4 年度事業の概要、各委員会、技術委員会の活動状況及び会員の異動について報告があり以下の質疑応答の後承認された。

【質疑応答】会の目的の改定：将来像検討会議の中で会の目的を変更する中で、「会員相互の親睦を目的とする」の一文が削除された。前回（7 年前）の秋田大会準備委員長は、この一文は設立当初から 80 年に亘って掲げた素晴らしい一文であると言及していた。会則を変えて新しい分野の方達を迎えようとする中で、この一文を削除されたの

はどういうことか？

会長：会則の目的を整理し見直す中で、「親睦」の文言は外したが、基本的には親睦を図ることは重視しており引き続き親睦を図る機会を作るよう留意する。

名誉会員小川様が昨年度にご逝去されたので全員起立の上黙とうした。

第2号議案 令和4年度決算報告

令和4年度事業の決算報告について報告があり質疑応答無く承認された。

第3号議案 令和5年度事業計画（案）および一般会計予算（案）承認の件

令和5年度事業計画（案）および一般会計予算（案）について報告があり以下の質疑応答の後、承認された。

【質疑応答】

個人会員予算額：個人会員予算850万円は昨年度を下回る数字である。実績からの予算額かもしれないが、これを予算額とするのは違和感がある。

参加費及びオンライン配信：春季講演会の今年度の参加費は6千円。昨年の2千円の3倍である。参加費が高い理由の一つはオンライン配信にある。地方開催では県外参加者に助成金が出るが、オンライン参加者は対象外である。オンライン配信は不要ではないか？

会長：個人会員予算の850万円は、会員数の減少によるが、仮に会員数が変わらなくても昭和55年から60年頃に入れた会員の方々が特別会員に移行することで会費が半額となり個人会費収入は減少する。

コロナ禍を経てオンライン開催が定着してきており、更にオンライン配信が普及する中で安価での開催が可能となろう。なお、オンライン配信の是非については毎年判断していく。

昨年度の参加費2千円は初めての参加費徴収となることから収支を考慮せず安く設定した。今回は収支バランスを考えて6千円とし、オンラインについては7千円と差をつけた。

会誌の印刷・発送について：会誌の印刷・発送は今後も続けるか？PDFで貰うことで情報共有が諮りやすい。また印刷費の削減にもなろう。

会長：会誌は現在PDF版であり、印刷希望者、国会図書館等の少数部数のみ印刷・配布している。なお、デジタル資料の共有はご質問の主旨ではないが、協会員に配布されたデジタル情報は基本的に共有については制限されるので、ご留意願う。

第4号議案：会則改定の件

会則の改定については、①「目的」について、活動範囲を広げることを趣旨とした改定を行った。②上記①の改定に関連する部分を改定した。③賛助会費のひと口単価を改定した。CCS委員会の設立について会則に追記した。以下の質疑応答の後に箇条書き記号の誤りについて修正の

上、原案通り承認された。

【質疑応答】

第6条の頭の章立：第6条の箇条書き記号「イロハニホヘト」が自動変換により誤っている点を指摘。

会長：記号の変換の誤りであるので、修正する。

第6条の「関連する科学・技術の発展に関する…」は文章としてこなれてない。

第6条の正会員、学生会員の文言：名誉会員、特別会員はこれで良いが、正会員、学生会員「天然ガス鉱業及びこれに関連する科学・技術の発展に関する学識・経験を有する者」であるが、正会員は「天然ガス鉱業及びこれに関連する科学・技術に関する学識・経験を有する者…」、学生会員は「天然ガス鉱業及びこれに関連する科学・技術に関する学問を選考する学生…」に変えるべきではないか？主旨は理解した。文言だけ訂正できないか？

会長：総会の手続き上、総会の場合での修正は難しい。必要な修正は来年の総会で行うこととしたい。

ここでの修正が出来ないのであれば一年ほっとくのではなく、理事会に一任するような手続きを取るなどして、ここで決められないか？

監事：只今の議案の手続きでは、現在の議案書を見て委任されている方々がいるため、この場の出席者のみの議論で修正を加えるのは難しいものと思える。

会長：監事の指摘もあり、原案どおり承認を願う。文言については来年の総会で適当な文言に修正し提案する。なお、箇条書き記号の誤りは、単純な誤りであり修正する。

目的への原材料の文言の追加：会則の目的に「…エネルギーの安定供給に資することを目的とし」とあるが、石油・天然ガスはエネルギーだけでなく原材料でもあり、今後リサイクル等で更にその比重ますものと思われる。よって、目的にエネルギーだけでなく「原材料」の文言も入れるべきである。

会長：議事録に記した上で、今後の検討事項とする。

第5号議案：名誉会員承認の件

徳橋秀一様、野市晴夫様、矢口良一様の3名について名誉会員に推薦し、拍手をもって承認された。

報告事項1. 第67回石油技術協会賞選考結果報告

石油技術協会賞奨励賞がJOGMECの赤井嵩嗣氏に決定した。栗田石油技術協会賞選考委員長より推薦理由について説明。その後、表彰式を行った。

5. 閉会

司会：議事進行にご協力いただきありがとうございます。以上をもちまして総会を終了します。

議事資料

第1号議案 令和4年度事業報告

1. 定時総会

令和4年6月7日国立オリンピック記念青少年総合セン

ター（東京・代々木）においてハイブリッド開催。採決は総会参加者に電子委任状・議決権行使を合わせた 201 名により定足数を満たし、付議事項はすべて承認可決。

2. 理事会

令和 4 年度は理事会を 6 回開催し、会務を処理した。全て Web による開催。

3. 評議員会

令和 4 年度、評議員会を Web 開催 1 回、実開催 1 回の 2 回開催。

4. 幹事会

令和 4 年度は幹事会を 12 回開催し、理事会審議事項ならびに協会の一般庶務事項を処理した。なお、全て Web による開催。

5. 講演会

- 1) 令和 4 年度春季講演会（個人講演・シンポジウム）を 6 月 8 日（水）、9 日（木）の 2 日間、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）にてハイブリッド開催。
- 2) 特別講演会は、6 月 7 日（火）の 2 名の講師を招き、40 名の参加者とオンライン参加者があった。
- 3) 春季講演会の参加者は、会場参加+ライブ配信視聴の実人数として、約 370 名となった。
- 4) 令和 4 年秋季講演会は 11 月 1 日に東京大学小柴ホールにおいて「エネルギー安定供給とカーボンニュートラル推進の両立を目指す社会に向けて～石油開発業界の持続的な役割～」と題して開催、会場参加者 54 名、オンライン参加者 87 名の参加者を得た。また後日録画のオンデマンド配信を行った。

上記の他、関連する学会、協会、団体が主催するそれぞれのシンポジウム・講演会への協賛・共催等を行った。

6. 見学会・特別見学会

令和 4 年度の見学会は、6 月 10 日（金）オンライン地質見学会「北海道東部根室地域の上部白亜系～古第三系根室層群および浦幌層群の堆積環境と堆積プロセス」を開催し、52 名の出席者を得た。また、令和 4 年度の特別見学会（地質編）は中止、特別見学会（物探編）は令和 5 年 3 月 9 日（木）に 9 名の参加者を得てオンライン開催した。

7. 将来像検討会議

石油開発業界として、エネルギー安定供給とカーボンニュートラル推進の両立を目指す中、理事会の諮問を受ける形で当会議を立ち上げ、その活動の中で、協会の目的を改正し、協会の将来あるべき姿を制定した。なお、この過程では、幹事会、理事会の他、各技術委員会での議論および本件に特化した特別理事会を開催し、意見を聴取した。

また、CCS 委員会の新設について、その設立目的、委員会活動の内容、運営体制の大枠について、幹事会、理事会、各技術委員会での議論を経て設立の承認を得た。

当面の課題は、CCS 委員会の立ち上げ、法人化の是非に関わる調査・検討である。

8. 委員会の活動

1) 会誌編集委員会（委員長 小林 肇）

令和 4 年度は会誌編集委員会を計 6 回開催した（リモート開催 5 回、ハイブリッド開催 1 回）。第 87 巻第 1～6 号、全 6 冊の石油技術協会誌をスケジュール通りに発刊。

また、運用 3 年目となるオンライン論文投稿査読システムの明瞭化、およびオンライン形式での出版など現状に対応した要領・規定等の見直しを行い、投稿・編集の各プロセスの更なる改善と合理化を進めた。

2) 国際委員会（委員長 山本 晃司）

海外学会等との交流促進

SPE 関連：

- ・ 国際委員会が窓口となり、SPE との関係緊密化を図るとともに、4 回の Distinguished Lecture（以下、DL）への協賛等を実施した。

・ 第 1 回

日時：2022 年 9 月 15 日（木）16:00～17:30

場所：株式会社 INPEX 本社 東京都港区赤坂五丁目 3 番 1 号赤坂 Biz タワー

講師：Kristian Mogensen (ADNOC HQ)

トピック “The Digital Twin for Production Optimization – with Emphasis on Compositional Modeling”

・ 第 2 回（zoom 開催）

日時：2022 年 10 月 11 日（火）

講師：Vibhas Pandey, Conoco Phillips

題目：Fracture Height Growth Modeling in Layered Formations - Comparison of Modeled and Observed Data

・ 第 3 回

日時：2023 年 1 月 17 日（火）16:00～17:30

プレゼンテーション

場所：株式会社 INPEX 本社 東京都港区赤坂五丁目 3 番 1 号 赤坂 Biz タワー

講師：Samuel Krevor (Imperial College London)

トピック “From digital rocks to gigatonne scale CO₂ storage: two revolutions in one”

・ 第 4 回

日時：2023 年 2 月 10 日（金）16:00～17:30

場所：株式会社 INPEX 本社 東京都港区赤坂五丁目 3 番 1 号 赤坂 Biz タワー

講師：Tom Emelander (Weatherford)

トピック “Sidetracking with Whipstocks: An Efficient Method for Increasing Your Operational and Asset Value”

SPWLA 関連：

- ・ SPWLA：「JFES 118th Chapter Meeting」を 2022 年 7 月 26 日（火）にオンライン開催。

・ Program:

Presentation 1 : <Title> 坑壁画像検層データに関するデジタル技術の利用や最近の開発事例 Digital and recent development around borehole image data

<Speaker> モレリ 智晶 (シュルンベルジェ), Chiaki Morelli (Schlumberger)

Presentation 2 : <Title> メタンハイドレートの検層データと地層評価方法の紹介 Introduction to Methane Hydrate logging data and formation evaluation methods

<Speaker> 夏 玲丹 (シュルンベルジェ), Lingdan Xia (Schlumberger)

Presentation 3 : <Title> ジオテクニカル地盤調査のための検層データの有効性 Application of logging data for geotechnical survey

<Speaker> 前原祐樹 (シュルンベルジェ), Yuki Maehara (Schlumberger)

- ・ JFES 第 27 回シンポジウムが 9 月 14-15 日の 2 日間、完全オンラインで開催された。今回のテーマは “Geothermal” で、計 8 件の招待講演と 12 件の一般講演があり、延べ 100 人強の参加者の元、盛況のうちに幕を閉じた。

- ・ 12 月 1 日に「JFES 119th Chapter Meeting」を開催。講演 1 : 掘削航海により明らかになった海底熱水鉱床の最新成因モデルおよび初期形成過程における微生物活動の重要性 (野崎達生, JAMSTEC)

講演 2 : 将来のマントル掘削挑戦のための待望のコア・ロギング統合の試み (Moe Kyaw, JAMSTEC)

その他 :

- ・ JAPT 会員に対し、ホームページ・協会誌を通じて、各種国際学会・ワークショップへの参加呼びかけを継続。引き続き JAPT と連携の可能性のある海外学会を検討、関係強化に努める。

3) HSE 委員会 (委員長 前田 卓哉)

【委員会活動】

令和 4 年度の HSE 委員会は、委員 10 名、その他活動メンバー 11 名の合計 21 名で活動を行った。活動内容は下記の通りである。

委員会 (web/ 書面開催) : 5 回 (5 月, 7 月, 8 月, 11 月, 2 月)

講演会 (web 開催) : 2 月 8 日

講師 : 東京大学未来ビジョン研究センター菊地康紀准教授

「持続可能な社会の実現に貢献するプロセスシステム工学」

【分科会活動】

- ・ HSE 教育訓練分科会 (INPEX ソリューションズ

米澤座長)

- 令和 4 年度 HSE 教育プログラムの提供 : 8 回
- 「HSE に関する外部の教育機会について (v 2.0)」の HP 公開 (2023/2/17)
- その他活動 (HSE コンピテンシーに関する検討、危機体感訓練や VR 安全体感訓練に関する調査)
- ・ HSE 管理分科会 (伊藤忠石油開発 米山座長)
 - 「Non Operated Joint Venture の HSE 管理ガイドライン (JV の労働安全衛生確保と環境事故防止を目指して)」の HP 公開 (2023/1/26)

【春季講演会】

- ・ 令和 4 年度 : 個人講演 7 件
- ・ 令和 5 年度 : 個人講演 8 件を予定

4) ホームページ委員会 (委員長 島本 辰夫)

インターネット会議 (e-mail) により活動を行った。協会ホームページの管理・運用を主たる業務とし、ニュースや他団体行事のお知らせを追加・更新するとともに「会員マイページ」に協会誌第 87 巻第 3 号から第 88 巻第 2 号の PDF ファイル、第 87 期理事会資料ファイルなどを公開し、ホームページの更新に併せてメールマガジン第 83 号～第 99 号を配信した。

協会ホームページ掲載の「石油開発 ABC」の改修を実施、一部修正必要箇所が見つかり継続中。

5) 資源経済委員会 (委員長 岩間 剛一)

令和 5 年 3 月 28 日 (火) 14:00 ~ 15:30 (オンライン開催)
4 名参加

報告 : 「燃料電池、アンモニア、水素の最新動向」を岩間より報告し議論を行った。

9. 技術委員会の活動

1) 探鉱技術委員会 (委員長 佐野 徹)

1. 令和 4 年度春季講演会地質・探鉱部門シンポジウム・個人講演開催

(6 月 8 日 -9 日・ハイブリッド開催)

・ シンポジウム

- ・ テーマ : 上流事業の強靱化・脱炭素化—地質・探鉱技術適用への取り組み—
- ・ 講演 : 8 講演 + 総合討論
- ・ 概要 :
エネルギートランジションに向けた世界の様々な変化は、石油・天然ガス上流事業にとって大きな挑戦である。本シンポジウムでは、探鉱戦略、石油システム評価技術、ベースンモデリング、モニタリング技術、CO₂ 地下固定に関する研究開発、CO₂ 地下貯留技術適用事例を共有し、地質・探鉱技術の適用による上流事業の強靱化・脱炭素化の展望について議論する。

- ・ 個人講演

- ・講演:38講演(32口頭発表+6ポスター発表)
- ・優秀賞発表(学生発表):三村匠海氏(秋田大学) 他
「静岡県掛川地域に分布する新第三系の石灰質ナンノ化石層序」
- ・オンライン地質見学会(6月10日)
 - ・「北海道東部根室地域の上部白亜系～古第三系根室層群および浦幌層群の堆積環境と堆積プロセス」
案内人:成瀬元氏(京都大)
- 2. 探鉱技術委員会の開催
 - ・計6回の委員会(総会2回,運営委員会4回)をオンライン開催し,令和4年度シンポジウム・個人講演の準備,協会誌シンポジウム特集号用原稿依頼・査読調整,次年度シンポジウムテーマ選定等を行った。
- 3. 分科会活動
 - ・下記話題提供をもとにした分科会活動を行った。
 - ・砂岩分科会
 - ・「北海道東部の碎屑性ジルコン年代(日本堆積学会と共催)」
Harisma Buburanda氏 7月28日
 - ・「コンターライトと底層流に関する最新の理解(第1部),深海成堆積システムと貯留岩特性(第2部)」
Dorrik Stow氏(Heriot-Watt University)
 - ・「西豪州イクシスガス・コンデンセート田の開発計画最適化に向けた下部白亜系深海成砂岩の貯留岩性状コントロールの要因の解明」
山本和幸氏(INPEX) 11月18日
 - ・炭酸塩岩分科会
 - ・「米国テキサス州に分布する炭酸塩岩とレーザーキャラクタライゼーションからみた露頭調査の意義」
柳沢達彦氏(伊藤忠石油開発株) 5月17日
 - ・物探分科会
 - ・「新しいモニタリング技術」
松島潤氏(東京大),水谷雄太氏(JX石油開発株) 8月29日
 - ・「反射法地震探査データ処理技術の高精度化の現状と将来展望」
猪野 滋,赤間健一(JGI) 3月24日
- 4. 特別見学会の開催
 - ・地質編:今年はコロナ禍のため見送り。
 - ・物理探査編:3月17日オンライン開催。参加対象は大学生・大学院生のみ
- 5. 関連学会
 - ・日本地球惑星科学連合2022年連合大会 学協会セッション
 - ・5月22日～27日(口頭発表+現地ポスター

発表;幕張メッセ)

- ・学協会セッション:「ガスハイドレートと地球環境・資源科学」共催5月26日
- ・日本地質学会 セッション共催
 - ・9月4日～6日(早稲田大学)
 - ・共催セッション:2セッション
 - ・トピックセッション(T9)「カーボンゼロエミッションに貢献する石油天然ガス石炭地質学・有機地球化学」
 - ・トピックセッション(T11)「堆積地質学の最新研究」

2) 作井技術委員会(委員長 久野 泰弘)

【委員会の構成】

- ・令和4年度の作井技術委員会の構成は以下の通り。
委員長:1名,運営幹事:10名,分科会座長:3名(2名は運営幹事と兼務),作井技術委員:23名,事務局:2名(計37名)

【令和4年度活動実績】

- ・運営幹事会:5回(臨時開催1回含む)開催(実開催/オンライン)
- ・作井技術委員会(含,特別講演):2回開催(実開催/オンライン)
- ・特別講演:
 - ・令和4年10月12日開催:「ガスハイドレートを利用した海底下二酸化炭素貯留」-東京大学海洋技術環境学専攻 佐藤 徹 教授
 - ・令和5年3月17日開催:「自然エネルギー利用の自動カイトシステム”Seawing”」-川崎汽船株式会社 山崎伸也氏,野村海斗氏

【令和4年度春季講演会(実開催/オンライン)】

- ・作井部門シンポジウム「坑井技術者から次世代に向けたメッセージ」:講演7件(協会誌掲載済み)。
- ・個人講演:16件(うち,学生講演8件)。
- ・シンポジウムパネルディスカッションでは司会・講演者によるパネラー8名の他,110名が参加(会場61名,オンライン49名)。

【令和4年度分科会活動】

- ・若手技術者交流会(座長JOGMEC 草薙座長):第10回開催(実開催)。
- ・大水深掘削技術分科会(座長JDC 前田座長):第29回開催(オンライン開催)。
- ・CCS/CCUS分科会(座長JAPEX 黒田座長):活動再開準備中。

【令和5年度春季講演会(予定)】

- ・作井部門シンポジウムテーマ:「エネルギートランジションにおける坑井技術者の役割—カーボンニュートラル実現とエネルギー安定供給の両立に向けた取組」
- ・シンポジウム講演7件,個人講演:17件(うち

学生講演 6 件), ポスター発表: 5 件 (すべて学生発表)

3) 生産技術委員会 (委員長 吉岡 克平)

今期は定例委員会を第 1 回と第 3 回をオンライン限定で, その他の第 7 回までをハイブリッド形式で開催した。

各委員会では, 幹事会・理事会・将来像検討会議の動きについての情報共有・議論, シンポジウムの企画・準備に加え, 技術情報共有を目的とした技術話題提供を持ち回りで実施した。また, 産学の交流を目的の一つとして例年秋～冬に実施していた大学での委員会開催・学生との交流会については, COVID-19 の収束に伴い再開した。上記の活動内容の復活に伴い, 本年の委員会活動における活動費の使用はほぼ予算どおりの実績となった。

第 1 回 2022/5/12 (木) JOGMEC・オンライン

第 2 回 2022/7/7 (木) INPEX ハイブリッド

第 3 回 2022/9/1 (木) JX オンライン

- ・話題提供: 吉満雅純氏 (JX 石開) 「高温高圧坑井掘削プロジェクトにおける Managed Pressure Drilling 適用事例」

第 4 回 2022/11/2 (水) 秋田大 ハイブリッド

- ・話題提供:
根岸慶輔氏 (秋田大) 「シリカナノ粒子を用いた石油増進回収技術における実験的研究と今後の展望」
Seddiqi Khwaja Naweel 氏 (秋田大) 「Decision-Making Technique for Water Conformance Using Random Forests and its Application in High Water Cut Reservoirs」

第 5 回 2022/12/2 (金) 東北大 ハイブリッド

- ・話題提供:
多田駿人氏 (東北大) 「ボーリング採取試料の応力開放に伴う弾性変形を利用した岩体応力測定原理の数値シミュレーション」
詫間康平氏 (東北大) 「火山岩地熱貯留層の CO₂ フラクチャリング」

第 6 回 2023/1/12 (木) CIECO ハイブリッド

- ・話題提供:
高梨 将氏 (伊藤忠石開) 「大規模生産案件における 4D 適用事例の紹介」

第 7 回 2023/3/3 (金) JAPEx 技研ハイブリッド

- ・話題提供ほか: 技研組織概要と最新の研究トピックス, および, ラボツアー, 2022 年度春季講演会では「石油ガス開発技術の在り方を考える Part 2~ カーボンニュートラルを見据えて~」のテーマで, 講演に加えパネルディスカッションも実施する形式でシンポジウムを開催した。既開発フィールドにおいて挑戦し続けている石油ガス開

発技術の最新動向を学ぶとともに, カーボンニュートラル実現における石油ガス開発分野の貢献と課題について, 多様な講演者とのパネルディスカッションを通して議論を深めることができた。特に CCS については, そのものの意義を問いかける本質的な議論が会場参加者を巻き込んで展開した。2023 年度の春季講演会では, 「カーボンニュートラルに向けた第一歩~ エネルギー開発の多様化・効率化」と題して, エネルギー安定供給とカーボンニュートラルを目指す具体的な動きと包括的な議論を織り交ぜた内容でのシンポジウム開催を予定している。

10. 令和 4 年度会員移動状況

	名誉会員	特別会員	正会員	学生会員	賛助会員	合 計
令和 4 年 3 月 31 日	71	130	1,285	111	61	1,658
増・減	+1	+14	-36	+5	-4	-20
令和 5 年 3 月 31 日	72	144	1,249	116	57	1,638

令和 4 年度物故会員 1 名

名誉会員 小川 克郎氏

第2号議案 令和4年度決算報告

【No.1】令和4年度 一般会計

科 目		予 算	実 績	実績-予算
収入の部	会 員 費	18,297,000	17,312,500	△ 984,500
	個 人 会 員	9,717,000	8,250,000	△ 1,467,000
	賛 助 会 員	8,580,000	8,580,000	0
	過 年 度 滞 納 分	0	475,500	475,500
	来 年 度 以 降 分	0	7,000	7,000
	事 業 収 入	2,226,120	2,020,403	△ 205,717
	購 読 費	260,000	260,000	0
	出 版 物 頒 布	127,000	121,880	△ 5,120
	要 旨 集 頒 布	0	0	0
	見 学 会 参 加 費	220,000	0	△ 220,000
	特別見学会参加費	168,000	0	△ 168,000
	講 演 会 参 加 費	1,350,000	1,424,570	74,570
	講 演 会 協 賛 金	0	0	0
	懇 親 会 参 加 費	0	0	0
	雑 収 入	101,120	213,953	112,833
	そ の 他	0	0	0
	地方総会分担金	0	0	0
	補 助 金	0	0	0
収 入 計 A		20,523,120	19,332,903	△ 1,190,217
支出の部	会 誌 費	5,228,019	5,045,528	△ 182,491
	印 刷 費	4,555,430	4,044,700	△ 510,730
	発 送 費	9,813	7,331	△ 2,482
	編 集 費	662,776	993,497	330,721
	事 業 費	6,537,337	6,133,717	△ 403,620
	総会・春季講演会費	4,135,380	4,930,017	794,637
	秋 季 講 演 会 費	375,077	177,271	△ 197,806
	見 学 会 費	480,000	0	△ 480,000
	特 別 見 学 会 費	378,080	0	△ 378,080
	HP 活 動 費	338,800	378,400	39,600
	探鉱技術委員会費	150,000	91,590	△ 58,410
	作井技術委員会費	200,000	188,321	△ 11,679
	生産技術委員会費	200,000	197,568	△ 2,432
	HSE 委 員 会 費	150,000	126,220	△ 23,780
	国 際 委 員 会 費	10,000	0	△ 10,000
	資源経済委員会費	50,000	0	△ 50,000
	HP 委 員 会 費	50,000	0	△ 50,000
	会誌編集委員会費	20,000	44,330	24,330
	事 務 費	11,884,080	12,419,215	535,135
	会 議 費	160,000	154,998	△ 5,002
	通 信 交 通 費	80,000	59,165	△ 20,835
	消 耗 品 費	10,000	5,720	△ 4,280
	事務業務委託費	9,415,080	9,991,030	575,950
	会員管理外部委託費	1,619,000	1,838,599	219,599
	旅 費	0	0	0
	雑 費	600,000	369,703	△ 230,297
	支 出 計 B	23,649,436	23,598,460	△ 50,976
当期収支差額 (A - B) C		△ 3,126,316	△ 4,265,557	△ 1,139,241
前期繰越金 D		26,784,139	26,784,139	0
次期繰越金 (C + D)		23,657,823	22,518,582	△ 1,139,241

【No.2】令和4年度 石油技術協会賞基金 (単位: 円)

科 目		金 額
収入の部	雑 収 入	6
	当期収入計 A	6
支出の部	協会賞 特別賞3個 記念盾	41,745
	学生優秀賞4名図書カード (探鉱1名, 作井1名, 生産2名)	40,000
	振込手数料	330
	当期支出計 B	82,075
当期収支差額 (A - B) C		△ 82,069
前期繰越金 D		815,627
次期繰越金 (C + D)		733,558

【No.3】令和4年度 石油技術協会基金 (単位: 円)

科 目		金 額
収入の部	雑 収 入	56
	当期収入計 A	56
支出の部	HP 活動費	599,830
	振込手数料	660
	当期支出計 B	600,490
当期収支差額 (A - B) C		△ 600,434
前期繰越金 D		6,790,646
次期繰越金 E (C + D)		6,190,212

以上の各項目を監査した結果、それが正確であることを認めます。

令和5年4月

監 事

市 川 真

監 事

樋 口 朋 之

監 事

横 井 悟

(一般会計)

予算で約 313 万円赤字のところ、実績では約 427 万円赤字となり、赤字は約 114 万円と拡大した。

主な予実績差額を以下に示す。(金額は千円の位を四捨五入して記載)

1. 収入 119 万円未達

1-1 会費の未回収 98 万円未達

・ 個人会員費 令和4年度分: 147 万円未回収

滞納分として 48 万円を回収したが、前年度までの平均回収額約 140 万円を大きく下回った。今

後は、滞納者所属組織の幹事または各社に会費回収を促す班長を指名し、滞納会費の回収に努める。

1-2 見学会、特別見学会：39 万円 開催せず

2. 支出 5 万円節約

2-1 事務費の超過 54 万円超過

- ・ 人件費（石鉱連業務委託）：58 万円超過 春季講演会前に特別雇用したため。
- ・ 会員管理外部委託費：22 万円超過 予算で想定しなかった秋季講演会分を委託したため
- ・ 雑費：23 万円減少

2-2 講演会等費 26 万円節約

- ・ 春季講演会：80 万円超過 ハイブリッド開催で NTT 工事費、配信費増のため。
- ・ 秋季講演会：20 万円節約
- ・ 見学会、特別見学会：86 万円 開催せず

2-3 会誌費 18 万円節約

2-4 委員会活動 18 万円節約

（石油技術協会基金）

当協会 HP に掲載している「石油開発 ABC」の改修際し、石油技術協会基金約 60 万円を活用した。同基金は、「当協会が発行する不定期出版図書の会員への負担軽減や、事務処理の円滑化を計るなど、協会運営上一般会計では運用できない部分を本基金で運用する。」ことを目的とし、適用範囲は下記の通りとなっている。

- 1) 不定期に刊行する図書に対し、発行にかかる諸経費の一部を負担する。
- 2) 事務 OA 化に対し、かかる諸経費の一部を負担する。
- 3) その他、必要に応じ協議の上決定する。

また、基金運用提案と決定のプロセスは、幹事会で協議提案し、理事会で決定することとなっており、本件については令和 4 年 4 月下旬に理事会メンバーからメールにより承認を得ている。

第 3 号議案 令和 5 年度事業計画（案）および一般会計予算（案）承認の件

1. 令和 5 年度事業計画（案）

令和 5 年度の事業計画は、以下の通り、
〈イベント〉

- ① 6 月 6～9 日 総会・特別講演会・春季講演会・見学会：秋田にぎわい交流館 AU（あう）にて実施。
- ② 11 月上旬（仮） 秋季講演会@東京
- ③ 開催時期未定 特別見学会（地質編・物理探鉱編）
- ④ 開催時期未定 日本地下水学会とのワークショップ（仮）

〈会誌〉

- ① 第 88 巻 3 号～第 89 巻第 2 号：6 号発行

〈24 年度以降に向けた取り組み〉

- ① 90 周年記念事業（式典と出版物）
- ② CCUS and Low Carbon Fuels に関する SPE との国際ワークショップ（仮）

〈将来像検討会議検討：継続〉

- ① CCS 委員会の運営具体化
- ② 法人化検討

〈会議関係〉

- (1) 理事会・幹事会は例年通り実施
- (2) 評議員会は休会、但し、賛助会員代表には活動内容の説明ビデオ配信予定。
有志での懇親会開催予定。

科 目		令和 5 年度予算案
収入の部	会 員 費	20,400,000
	個 人 会 員	8,500,000
	賛 助 会 員	10,900,000
	過 年 度 滞 納 分	1,000,000
	来 年 度 以 降 分	0
	事 業 収 入	4,065,500
	購 読 費	260,000
	出 版 物 頒 布	120,000
	要 旨 集 頒 布	0
	見 学 会 参 加 費	330,000
	特 別 見 学 会 参 加 費	140,000
	講 演 会 参 加 費	2,200,500
	講 演 会 協 賛 金	0
	懇 親 会 参 加 費	800,000
	雑 収 入	215,000
	そ の 他	1,640,000
	地 方 総 会 分 担 金	1,110,000
	補 助 金	530,000
	収 入 計 A	26,105,500
支出の部	会 誌 費	4,910,000
	印 刷 費	4,050,000
	発 送 費	10,000
	編 集 費	850,000
	事 業 費	7,110,600
	総会・春季講演会費	4,300,000
	秋 季 講 演 会 費	180,000
	見 学 会 費	370,600
	特 別 見 学 会 費	300,000
	H P 活 動 費	380,000
	探 鉱 技 術 委 員 会 費	300,000
	作 井 技 術 委 員 会 費	300,000
	生 産 技 術 委 員 会 費	300,000
	(新設) CCS 委員会	300,000
	HSE 委 員 会 費	250,000
	国 際 委 員 会 費	10,000
	資 源 経 済 委 員 会 費	50,000
	HP 委 員 会 費	50,000
	会 誌 編 集 委 員 会 費	20,000
	事 務 費	13,240,000
	会 議 費	150,000
	通 信 交 通 費	60,000
	消 耗 品 費	10,000
	事務業務に係る出向料	10,020,000
	会員管理外部委託費	2,200,000
	旅 費	200,000
	雑 費	600,000
	支 出 計 B	25,260,600
	当期収支差額 C = A - B	844,900

令和 5 年度一般会計予算におけるポイントは以下のとおりである。(金額は千円の位を四捨五入して記載)

講演会の支出は、参加費を徴収することで賄うべく企画しているが、この策を講じても赤字が出ることが予想されたため、財政基盤の強化を図るべく、賛助会費を 1 口 4 万

円から 5 万円に改定する。なお、この値上げにより収入は前年度比約 230 万円増える見込みである。

この賛助会員費値上げを含めた今期予算では 84 万円の黒字となっているが、これは秋田での総会・春季講演会・見学会を開催することに関連して地方大会分担金と補助金計 164 万円の収入があるため、これを除けば 80 万円の赤字となる。この赤字分については、今期はこれまで予算化してこなかった過年度滞納分を予算化し回収に努めるとともに諸経費の節約に努め、分担金と補助金を除いた収支バランスで黒字化を目指す。

費目別の特記事項は以下のとおりである。

1. 収入

1-1 賛助会員費の値上げ

年間収益ゼロ化に寄与 4 万円 / 口 → 5 万円 / 口 前年比 232 万円の増収見込み

1-2 滞納会費の回収

個人会費の過年度滞納分を各職場の班長（幹事、指名班長）により納付を促し回収に努める。

1-3 春季講演会参加費徴収

大会毎の収支ゼロ達成に必要な 会員 現地 6,000 円、オンライン 7,000 円

この金額は他学会より若干安いレベル。

2. 支出

2-1 技術委員会の活動費

アフターコロナでは主に対面での活動を行うことから、探鉱・生産・作井技術委員会には 30 万円を計上する。新設する CCS 委員会については、これと同額の 30 万円とする。なお、HSE 委員会については 25 万円とする。

2-2 事務費の契約の変更

令和 5 年度より、石鉱連への業務委託契約を同連盟からの出向契約に変更する。出向人件費と出向管理費合計は、1,002 万円となる。

2-3 法人化検討のための調査費

法人化の主な目的の 1 つは、公的機関の諸制度を利用して、協会の活動を収入に繋がる事業の受注および補助金などの財政支援を受けることである。その為の要件、手続き等につき、有料サービスも利用しながら調査する。このため雑費の一部として調査費 22 万円を計上する。

なお、令和 6 年度以降についても、事務費が年率で約 8% 上昇し続け、令和 9 年度には現在よりも約 300 万円の増額となることから、さらなる収支改善が課題となるが、当協会としては、CCS 分野に活動を拡げるなどして会員数を増やし、業務受注を新たに開始するなどの改善策を講じていく。

第4号議案 会則改定の件

令和4年度の将来像検討会議の検討により、CCS委員会を新設すること、また賛助会員の会費を1口5万円としたい。よって以下の会則について一部改正するものである。

会則（現行）	改正（案）	備考
（目 的） 本会は、石油・天然ガス鉱業に関する学問・技術の進歩普及に努め、斯業の発展に資するとともに、あわせて会員相互の親睦を図ることを目的とする。	（目 的） 本会は、石油・天然ガス鉱業及びこれに関連する科学・技術の進歩普及への貢献を通じ、<u>地球環境を保全しながらエネルギーの安定供給に資することを目的とする。</u>	CCS委員会設立に対応し目的の範囲を広げたため。
第6条 本会は次の会員で組織する。 （イ）名誉会員 石油・天然ガス鉱業の発展および本会の運営に特に顕著な功績のあった特別会員および正会員中から理事会が推薦し総会の承認を得た者 （ロ）特別会員 石油・天然ガス鉱業および本会の発展に功績のあった正会員の中から、事業年度開始時に満65歳以上かつ本会在籍年数30年以上で会長が推薦し理事会の承認を得た者 （ハ）正会員 石油・天然ガス鉱業に関する学識・経験を有する者 （ニ）学生会員 石油・天然ガス鉱業に関する学問を専攻する学生 （ホ）賛助会員 本会の目的に賛同した法人およびこれに準ずる者	第6条 本会は次の会員で組織する。 （イ）名誉会員 石油・天然ガス鉱業及びこれに関連する科学・技術の発展、本会の運営に特に顕著な功績のあった特別会員および正会員中から理事会が推薦し総会の承認を得た者 （ロ）特別会員 石油・天然ガス鉱業及びこれに関連する科学・技術の発展、本会の発展に功績のあった正会員の中から、事業年度開始時に満65歳以上かつ本会在籍年数30年以上で会長が推薦し理事会の承認を得た者 （ハ）正会員 石油・天然ガス鉱業及びこれに関連する科学・技術の発展に関する学識・経験を有する者 （ニ）学生会員 石油・天然ガス鉱業及びこれに関連する科学・技術の発展に関する学問を専攻する学生 （ホ）賛助会員 本会の目的に賛同した法人およびこれに準ずる者	CCS委員会設立に対応し目的の範囲を広げたため。

（会費） 第8条 前条により入会の承認を得た者は、次の会費を毎年度前納するものとする。ただし名誉会員については会費を納めることを要しない。 （イ）（省略） （ロ）（省略） （ハ）（省略） 賛助会員年額1口40,000円（1口以上） （委員会の構成） 第40条本会に次の委員会をおく。 （イ）会誌編集委員会 （ロ）石油技術協会賞選考委員会 （ハ）選挙管理委員会 （ニ）探鉱技術委員会 （ホ）作井技術委員会 （ヘ）生産技術委員会 （ト）HSE委員会 （チ）国際委員会 （リ）資源経済委員会 （ヌ）ホームページ委員会 （ル）その他の委員会	（会費） 第8条 前条により入会の承認を得た者は、次の会費を毎年度前納するものとする。ただし名誉会員については会費を納めることを要しない。 （イ）（省略） （ロ）（省略） （ハ）（省略） 賛助会員年額 1口50,000円（1口以上） （委員会の構成） 第40条 本会に次の委員会をおく。 （イ）会誌編集委員会 （ロ）石油技術協会賞選考委員会 （ハ）選挙管理委員会 （ニ）探鉱技術委員会 （ホ）作井技術委員会 （ヘ）生産技術委員会 （ト）<u>CCS委員会</u> （チ）HSE委員会 （リ）国際委員会 （ヌ）資源経済委員会 （ル）ホームページ委員会 （ヲ）その他の委員会	協会の収支改善のため値上げをお願いしたい。
（技術委員会） 第44条探鉱技術委員会、作井技術委員会および、生産技術委員会を技術委員会と総称する。 2 技術委員会は石油・天然ガス鉱業に関する調査研究および指導に関する業務を処理する	（技術委員会） 第44条 探鉱技術委員会、作井技術委員会および、生産技術委員会を技術委員会と総称する。 2 技術委員会は石油・天然ガス鉱業及びこれに関連する科学・技術に関する調査研究および指導に関する業務を処理する。	CCS委員会設立に対応し目的の範囲を広げたため。
（新設）	（<u>CCS委員会</u>） 第45条 <u>CCS委員会</u>は<u>CCSに関する業務</u>を処理する。<u>2委員の任期は2年とする。</u>	CCS委員会の目的と任期を記載。
（HSE委員会） 第45条 HSE委員会は石油・天然ガス鉱業のHSEについての調査研究および指導に関する業務を処理する。	（HSE委員会） 第46条 HSE委員会は石油・天然ガス鉱業及びこれに関連する科学・技術のHSEについての調査研究および指導に関する業務を処理する。	CCS委員会設立に対応し目的の範囲を広げたため。
第46条	第47条	条項追加による番号変更

(資源経済委員会) 第 47 条 資源経済委員 会は石油・天然ガス 鉱業の資源経済的側 面についての調査研 究および指導に関す る業務を処理する。 2 委員の任期は 2 年と する。	(資源経済委員会) 第 48 条 資源経済委員 会は石油・天然ガス 鉱業及びこれに関連 する科学・技術の資 源経済的側面につい ての調査研究および 指導に関する業務を 処理する。 2 委員の任期は 2 年と する。	CCS 委員会設立に対 応し目的の範囲を広 げたため。
第 48 条	第 49 条	条項追加による番号 変更
第 49 条	第 50 条	
第 50 条	第 51 条	
第 51 条	第 52 条	
第 52 条	第 53 条	
第 53 条	第 54 条	
附則	本改正は令和 5 年 6 月 6 日より施行する。	

第 5 号議案 名誉会員承認の件
会則第 6 条イ項に基づき、令和 4 年度名誉会員に以下の
者を推薦する。
(候補者名) 3 名
徳橋 秀一 氏
野市 晴夫 氏
矢口 良一 氏



特別講演会

定時総会に引き続き、同会場において 102 名の会場参加
者、80 名のオンライン参加者を集め、2 本の特別講演会が
開催された。
1) 「秋田県庁における石油開発 ～ 20 世紀後半～」
秋田県産業労働部クリーンエネルギー政策統括監
阿部 泰久 様



2) 「カーボンニュートラル社会実現に向けて石油工学
の果たす役割」
秋田大学大学院国際資源学研究科 教授 長縄 成実 様



春季講演会

令和 5 年 6 月 7 日 (水)・8 日 (木) の 2 日間、秋田市
にぎわい交流館 AU (あう) にて会場参加と共にオンラ
イン配信にて開催された。

【シンポジウムおよび個人講演】

1) 地質・探鉱部門 シンポジウム, 個人講演会

シンポジウムテーマ:

「G & G 技術に係る DX 化の展望と課題」

地質・探鉱部門	会場 参加者	オンライン 参加者
6/7 シンポジウム講演 9 本, パネルディスカッション	90 名	65 名
6/8 個人講演会 講演 17 本	40 名	30 名
6/8 個人講演会 講演 18 本	50 名	35 名
6/8 ポスター発表 10 本	多数	(PDF 閲覧)



2) 作井部門 シンポジウム, 個人講演会

シンポジウムテーマ:「エネルギートランジションにおける坑井技術者の役割—カーボンニュートラル実現とエネルギー安定供給の両立に向けた取組」

作井部門	会場 参加者	オンライン 参加者
6/7 シンポジウム講演 7 本, パネルディスカッション	68 名	35 名
6/8 個人講演会 講演 17 本	65 名	20 名
6/8 ポスター発表 5 本	多数	(PDF 閲覧)



3) 開発・生産部門 シンポジウム・個人講演会

シンポジウムテーマ:「カーボンニュートラルに向けた第一歩 ~エネルギー開発の多様化・効率化」

開発・生産部門	会場 参加者	オンライン 参加者
6/7 個人講演会 講演 18 本	50 名	45 名
6/7 個人講演会 講演 18 本	80 名	25 名
6/8 ポスター発表 19 本	多数	(PDF 閲覧)
6/8 シンポジウム 講演 6 本, パネルディスカッション	120 名	60 名



4) HSE 部門 個人講演会

HSE 部門	会場 参加者	オンライン 参加者*
6/7 個人講演会 講演 8 本	18 名	15 名

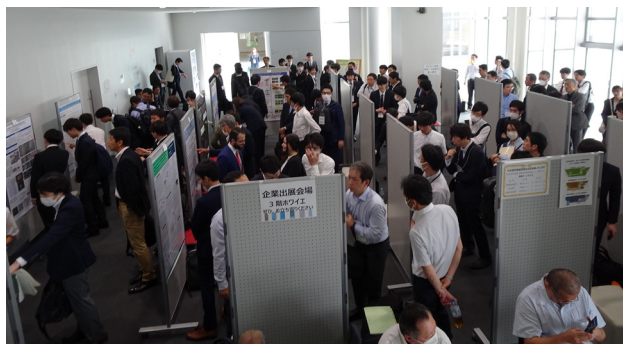


5) 優秀発表賞

個人講演発表の中から, 技術委員会毎に優れた発表を行った下記の学生に対し優秀発表賞を授与した。

(第 5 号に発表内容の紹介記事を掲載する。)

- ・ 地質・探鉱部門 (ポスター) Hartono Barry Majeed (秋田大学)
- ・ 作井部門 (口頭) 高橋 佳樹 (早稲田大学)
- ・ 作井部門 (ポスター) 下村 領 (秋田大学)
- ・ 開発・生産部門 (口頭) 伊藤 聡志 (早稲田大学)
- ・ 開発・生産部門 (ポスター) 芹澤 優希 (早稲田大学)



【見学会】

6月9日（金）は、以下の3コースの見学会が実施され、大変好評の裡に終了した。

6/9 見学会	参加者
A コース（地質巡検）男鹿半島の地質見学	19 名
B コース（施設巡検）エネルギー関連企業の施設見学	34 名
C コース（ジオパーク）男鹿半島・大潟ジオパークコース	18 名



A コース：男鹿半島地質巡検



B コース：施設見学（秋田潟上ウインドファーム）



C コース：ジオパークコース（男鹿真山伝承館）